

令和3年度 第3回住吉区防災専門会議

令和4年3月2日（水）

【大宅地域課長代理】 定刻になりましたので、ただいまより、令和3年度第3回住吉区防災専門会議を開催させていただきます。

本日はお忙しい中、住吉区防災専門会議に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は、本日の司会を務めさせていただきます地域課長代理の大宅と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それではまず初めに、平澤区長から御挨拶させていただきます。区長、よろしくお願いいたします。

【平澤区長】 皆さん、こんばんは。区長の平澤です。平素より住吉区政に御理解、御協力を頂きまして、ありがとうございます。コロナの感染が高止まりで、感染の数がなかなか減らないという状況の中、本日、御出席の皆様方、それぞれのお立場でコロナ対策にも、非常にお時間を取っていただいているところだと思います。そういったお忙しい中、本日は御出席いただきまして、本当にありがとうございます。

防災、やはりコロナ対策も大変重要なんですけれども、防災も非常に重要ということで、本日は令和4年度の住吉区の総合防災訓練のことですとか、大和川の氾濫等に備えたアクションプランについて、御意見を頂くということで集まっていただきました。それぞれの立場から忌憚のない御意見も毎回頂いておりますけれども、本日もどうぞ活発な議論を頂きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【大宅地域課長代理】 ありがとうございます。

本日の出欠状況になりますが、石橋委員のほうが所用により御欠席ということになっております。

それでは、会議を始めます前に皆様方にお願いがございます。議事録を残すために御発言を頂く際、お名前をおっしゃっていただきますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、ただいまより議事進行を生田先生にお願いいたします。先生、よろしくお願いいたします。

【生田委員長】 皆さん、こんばんは。大阪市立大学の生田です。

まず初めに、報告事項の（1）「令和3年度第2回防災専門会議での意見に対する対応方

針について」、事務局から報告をお願いします。

【大宅地域課長代理】 地域課長代理の大宅です。

令和3年度第2回防災専門会議での意見に対する対応方針ということで、まず小林委員のほうから、災害時の情報伝達方法についてということで、確実に受け取ることができるツールはラジオだと思う。地域のFMコミュニティ放送みたいなものでもあればいいのかなと思うという御意見をいただきました。

それに対する対応方針としまして、コミュニティFM放送局が大阪市には2か所ございます。これは民営なんですが、放送エリアが一般的に地域（市町村単位）に限定されるため、区内に特化した情報を放送することは難しいということです。

またFMミニ放送については、電波が非常に微弱であるため、区内全体に情報伝達を行うことはちょっと困難ということになっております。大阪市においては、「大阪放送株式会社」、「エフエム大阪」、「エフエムはちまるに」と協定を締結しております。いずれにしても、より多くの区民の方に正確な情報が速やかに伝達できるよう、様々なツールを活用した情報伝達内容の検討を引き続き行ってまいりたいと思っております。

次のページ、ちょっとめくっていただいて参考にはなるんですが、コミュニティFM放送を現在、開設しているところや、裏面、FMミニ放送、臨時災害放送局の特徴について、それぞれ記載させていただいておりますので、また御一読いただければと思います。

続きまして2番、松岡委員からの御意見ということで、個別避難計画の作成について、住吉区ではいわゆる個別支援プランを作成しておりますが、これにつきましてケアマネジャーや担当相談員等の福祉専門職を活用し、1件作成ごとに補助金は出すなどしているところがあると聞いているということで、そのような手法の検討も効果的ではないかという御意見を頂きました。

対応方針としましては、個別避難計画の作成におきましては、当区も含め今現在、4区と危機管理室などで構成されたワーキンググループにおいて、福祉専門職との連携方法について検討を行っているところでございます。年度内には取りまとめを行う予定となっております。

また、住吉区においては、地域や町会等を単位として作成を進めていただいております。訪問時に本人に既に関わりのあるケアマネジャー等に同行を依頼したり、ケアマネジャー等の訪問時に合わせて訪問を実施する等、ワーキンググループの議論を踏まえて、より効果的な連携方法等を具体的に検討してまいりたいと思っております。以上になります。

【生田委員長】 ただいまの報告について御質問等いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

それでは報告事項の(2)「令和3年度第3回区政会議(意見聴取会)における防災に関する意見要旨について」、事務局から報告をお願いします。

【小林地域課長】 こんにちは。地域課長の小林です。

資料2を御覧ください。「第3回区政会議における防災に関する意見要旨」ということで、全て災害時要援護者支援に関する質問でございます。

認知症の方や独居で支援が必要な方がたくさんおり、そういう方々に対して、災害時にすぐに連絡をしたいと。もう少しきめ細かく伝達できるような方法はないかという御意見でございます。

対応方針といたしまして、風水害については、事前に情報が分かりますので、台風であれば、暴風警報が発表される見込み時刻の2から3時間前、水害であれば警戒レベル3が発令される2時間前に、区役所から必要な情報を地域活動協議会会長のほうへ伝達させていただきます。その情報を避難が必要な方に伝達するため、日頃から顔の見える関係をつくっていただくことが大切でございますので、地域の方々に御尽力を賜っているところでございます。

今後、伝達訓練などの実施を検討するほか、浸水想定や建物の状況によって、避難が必要かどうかの事前確認などにも御協力いただきたいと考えておりまして、情報伝達の手法について、地域の方々に御相談させていただきたいと考えておるところでございます。

裏面を御覧ください。

次の意見は、要援護者支援台帳について、町会長がいない場合はどうするか、何かいい工夫はないだろうかという御意見でございます。

対応方針といたしまして、要援護者支援台帳は、町会エリア分を町会長、地域全体分を地域活動協議会のほうで保管していただいております。町会長ではなく、先ほども申しましたように、地域の方々に日頃から声掛け・見守りを実施していただき、顔の見える関係を作っていただきたいと考えておりまして、区役所として体制構築に向けた支援を引き続き、行ってまいります。

今年度、原田委員の町会でも御尽力賜りました、一時避難場所開設DVDを作成いたし

ました。それを町会長だけではなくて、より多くの方に見ていただくということと、それを見ていただいて、11月の総合防災訓練で多くの町会で安否確認訓練等を実施していただきました。そういった好事例を共有するとともに、災害時に必要な支援を記載した個別避難計画、当区で言う個別支援プラン、そういったものを作成することで、より迅速な対応が可能となると考えておりますので、作成を推進してまいりたいと考えております。

最後に、高齢者施設等に要援護者の情報がないため、日頃から地域と施設のコミュニケーションが重要だと思ふという御意見に対しまして、地域の見守り報告会等で施設の方が参加していただいている地域や、地域支援員とケアマネジャーさんが集い、支援について話し合っている地域もございます。相互の負担が軽減されるということも期待できますので、地域と施設の連携は本当に重要であると考えております。

こういった事例も、いろんな地域でケアマネ交流会とか、そういったものも実施していただいたところもありますので、そういった好事例などを共有させていただき、連携が深まるように、我々としても取り組んでまいりたいと考えております。以上です。

【生田委員長】 ただいまの報告について、御質問等いかがでしょうか。

畑委員、お願いいたします。

【畑委員】 前回ちょっと休んで、申し訳ございません。医師会の畑です。

今、御発表いただいたDVDとか、今もうDVDって結構もう古い企画になってきてまして、なかなかDVDプレイヤーもない時代になってきていますので、もちろん作った人の許可が要ると思いますが、YouTubeに上げて、QRコード等を掲載しておくとか、皆さん、お持ちのスマホでいつでも見たいときに見られるというふうにされてはいかがかなということでした。

あともう一つ、先ほどの高齢者施設との連携について、高齢者施設はそこでちゃんと生きていけるという、全部そろっているところではあるんですが、周りのところと連携を取るのはいろんな備蓄物もあるし、非常に役に立つと思うんですが、好事例をなるべく公開していただきたいなど。私も実は特養の管理医師をやっておりますので、ちょっとクラスターが起こってひどい目に遭いましたけど、そういうところをかなり参考になるし、その特養のスタッフにも、それをちゃんと見といてというふうにちゃんと伝えますので、ぜひちょっと見られるようお願いしたいと思います。以上です。

【小林地域課長】 地域課長の小林です。貴重な御意見、ありがとうございます。

まず先ほどのDVDの件ですけれども、住吉区のホームページの中にYouTubeコ

一ナーというものがございます。その中に、畑先生にも御協力いただいたDVDも含めて、YouTubeのほうにも掲載させていただいていますので、また御覧いただきたいと思います。後ほどの大和川のアクションプランのほうでも御説明させていただきたいと思っていますので、御覧ください。

あとケアマネ交流会等の好事例の公開については、地域や施設の方と調整して、より多くのところで紹介できるような形で検討してまいりたいと考えております。どうぞよろしくをお願いします。

【生田委員長】 では、ほかにいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

では、次にまいりたいと思います。

報告事項の(3)「令和3年度住吉区総合防災訓練実施結果について」、事務局から報告をお願いします。

【次井地域課担当係長】 地域課防災担当係長の次井と申します。

資料3を報告させていただきます。「令和3年度住吉区総合防災訓練実施結果」になります。

概要につきまして、昨年11月13日に開催させていただきました。

参加者ですが、令和2年度は約1,000人の参加者でしたが、町会一時避難場所での訓練を実施していただいたことで、約2,000人の参加をいただきました。内訳としまして、地域活動協議会役員や、地域防災リーダーの方々、約1,700人の地域の方に御協力をいただきました。あとは、生田先生や本日お越しの皆様をはじめ、関係機関、約100人の方にも御協力をいただきました。ありがとうございました。

1枚めくっていただきまして、訓練のイメージですが、こちらは前回の専門会議で御説明済みの内容ですので、省略させていただきます。

続きまして、その次のページの6ページですが、避難所開設状況ということで、丸印は地域と職員で開設した21か所、三角印は職員のみで開設した11か所、横線は学校の都合で開設できなかった5か所の内容をお示ししています。

1枚めくっていただきまして7ページですが、i i s u m i についてです。こちらは御存じいただいている方が多いとは思いますが、当区で独自で導入しているシステムで、病院、クリニック、薬局、訪問看護ステーション、福祉避難所、災害時避難所がスマホ等で被害状況などを入力することによって、区災害対策本部で情報の一括収集を迅速に行い、

以降の支援計画の検討に活用させていただけるものになります。

下のほうの8ページは登録内容の概要となりまして、開院状況の有無、建物倒壊の恐れの有無、ライフラインや医薬品等などを入力していただくことになっております。

続きまして9ページですが、i i s u m i の入力率です。こちらは、左から医師会、薬剤師会、歯科医師会は令和2年度に比べ、令和3年度はやや減少し、その後の訪問看護ステーション、福祉避難所や災害時避難所は令和2年度に比べ、令和3年度はやや増加した状況となります。掲示板機能を使いながら再度周知、入力依頼をさせていただきまして、入力率を次年度は上げていきたいと思っております。

その下の10ページは、訓練に御協力いただいた関係機関の8機関を掲載させていただいております。御協力ありがとうございました。

1枚めくっていただきまして11ページですが、訓練の様子ということで、11ページ、町会一時避難場所につきましては、可搬式ポンプ庫内の物資確認や、毛布担架による応急救助の訓練の様子などになります。

その下の12ページは、災害時避難所の訓練内容になりまして、地域災害対策本部の開設状況であったり、続いてその次の13ページですが、一般避難者スペースの設え、療養者スペース、簡易テントの組立などの様子を載せさせていただいております。

その下の14ページにつきましては、環境局が小学校等に設置した太陽光発電について、荻田南小学校で仕組みと災害時の利用方法についての説明を行っていただいた模様になります。次年度は長居小学校で説明を実施させていただく予定となっております。

1枚めくっていただきまして、15ページのほうは、区災害対策本部での様子ということで、市との情報共有で防災情報システムや保健福祉班のi i s u m i 担当につきましては、各機関から集約した情報をマッピングし、可視化した様子を掲載させていただいております。

その下の保健福祉班ですが、i i s u m i により収集した情報をもとに、救護所設置箇所の検討や時系列の記録を取った内容になりまして、その下の庶務班ですが、防災情報システムや無線で収集した情報をもとに、被害状況や避難者数を集約及び記録をしている様子となります。

次のページの17ページは、コロナ指定避難所の様子で、住吉区内のコロナ指定避難所として老人福祉センター、区民センターの図書館棟での訓練の様子になります。防護服の着用や簡易テント等の組立てをしている様子になります。

その下の18ページは、アンケート結果になります。コロナ禍のため、一時避難場所で帰

られた方が多く、災害時避難所での訓練参加が少なかったため、回答者数は非常に少なくなりましたが、291人の方に回答を頂きました。防災訓練はスムーズに行うことができたかの質問に関しましては、できた、おおむねできたで約85%と高い回答率を頂くことができました。こちらは原田委員や小林委員が、地域で丁寧な説明を行っていただいたり、各地域で一時避難場所、災害時避難所開設動画を参考に実施していただいた結果だと思っています。ありがとうございます。

続きまして1枚めくっていただきまして、今後どのような訓練が必要だと思いますかにつきましては、災害時避難所の開設・運営、応急手当、安否確認、一時避難場所、水害想定避難訓練などの回答でした。実践に即した訓練の回答を多く頂きましたので、来年度は、一般の方も参加対象にし、より充実した内容にしていきたいと思っております。

その下が、今回の訓練でよかった点や改善すべき点ということで、よかった点につきましては、上から2番目の訓練に参加している方の意識が高く、みんなで意見交換を行うことができた。3つ下の一時避難場所において、要介助者の搬送方法などの訓練ができてよかった。また3つ下で、日頃からの見守り活動により、要支援者に対する安否確認訓練をスムーズに実施できた。1つ下のコロナ禍を考慮し、ソーシャルディスタンスを確保しながら訓練を実施することができたなどの御意見を頂いておりまして、平成28年度からの総合防災訓練の実施により、役員の方の意識が高くなっていただいているので、今後は一般の方の意識も高くなるように実施し、地域の防災力向上に努めていきたいと思っております。

続きましてその次の21ページですが、改善すべき点及び対応方針になります。1番、区役所の参集職員はもっと積極的に行動してほしいという御意見につきましては、事前に研修を実施していますが、地域の模擬訓練への参加など、より有効な研修方法について検討、実施してまいります。

2番、各作業の指揮系統が分からず、迅速な対応につながらなかったにつきましては、避難所運営委員会の組織、役割名簿ができていることが大切なので、まだの地域には作成を依頼しまして、引き続き事前の模擬訓練を実施してまいりたいと思っております。

3、次回はもっと多くの方が参加できるようにしていきたい。こちらは次年度についても状況を注視しながら参加していただけるよう、実施方法等を検討してまいりたいと思っています。

その下の4、備蓄倉庫の整理を行い、何がどこに入っているか分かるようにすべきだと

思うにつきましては、コロナ対策にかかる物資を新たに多数配備した関係によりまして、備蓄倉庫が足りなくなってきましたが、地域や施設管理者と引き続き調整の上、備蓄場所の確保に努め、備蓄倉庫内のどこに何が入っているか表示するなど、備蓄倉庫の整理を地域の方と一緒にやってまいりたいと思っております。

続きまして5、各地域から区へMCA無線は混線するため、区役所に12台必要ではないかにつきましては、MCA無線の回線については、回線上限数が決まっているので、増やすことがちょっと難しい状況となります。それに替わりまして、LINEやiisumiなど様々なツールにおいて実施するよう、検討、周知を図ってまいりたいと思っております。

1枚めくっていただいて裏面ですが、6番の水害に備えて、1階に保管している物資は上階に移動すべきではないかにつきましては、大和川氾濫における浸水が想定される避難所においては、順次上階へ移動を進めていますが、地域や施設管理者と引き続き調整の上、備蓄場所の確保に努めていきたいと思っております。場所の確保が困難な場合、水害はあらかじめ想定が可能であるため、水害が発生する想定の数時間前、2階以上に臨時的に移動するなど、運用方法の検討も行ってまいります。

7、簡易トイレの凝固剤や養生テープなど消耗品が少ないため、もっと配備してほしいにつきましては、各避難所に簡易トイレの凝固剤1,600セット、養生テープを30巻配備しています。避難所に300名が避難した場合、1日にトイレに行く回数を5回としますと、1,500セット使用することになりますので、約1日で使い切るようになりますが、こちらのほうは区役所の防災倉庫では、阿倍野防災倉庫から必要に応じて補充を行いますのと、あとは地域や防災専門会議等で御意見を頂きながら、引き続き必要投資の検討や予算措置を行っていきたくと思っております。以上になります。

【生田委員長】 ありがとうございました。

それでは、ただいまの報告について、御質問等いかがでしょうか。

では西上委員、お願いします。

【西上委員】 西上です。

ちょっと確認なんですけども、アンケート18ページですかね。アンケートのところで85%の回答の方がスムーズに訓練を行うことができたというふうに回答されていて、15%の方ができなかったとなっているんです。これって、15%と見ると少ないんですけど、実際、%人数で計算したら、大体50人弱ぐらいかなと思うんですけども、ここら辺って、50人弱の

方ができなかつたと回答されているので、そこら辺のところでの内容について、把握はされていますか。どういったことで、スムーズに行くことができなかったということについては。もうここに書いてある改善すべき点に全部集約されているという理解でいいんですかね。

【次井地域課担当係長】 地域課防災担当係長の次井と申します。今、御指摘いただいた点につきましては、課題改善すべき点の中で御意見を頂いているという認識をさせていただきます。

【小林地域課長】 地域課長の小林です。

全てのアンケートについては、防災担当職員が一言一句確認させていただいております。これはある程度多数あった御意見をまとめておるものでございます。今後、各地域に行かせていただいて、それぞれの地域ごとの課題、そういったものもまとめておまして、地域に対して今後、御説明をさせていただくというようなこともさせていただきますので、そういったことも含めて、来年度の訓練等にも生かしてまいりたいと考えております。よろしく願いいたします。

【生田委員長】 ありがとうございます。

では原田委員、お願いいたします。

【原田委員】 今の西上さんのことですけれども、私の地域で考えますと、ふだん、あまり出てこない方がアンケートのときに、要領が分かってないからかなと。自分のところの地域に、理想は理想なんですけれども、自分のところの地域に即した形のものをつくっていくという形のほうが、そこら辺が理解していただいていたんだと思うんですね。そういうことで、うまくいかなかったというふうな答えが出たというふうに思っております。以上です。

【生田委員長】 ありがとうございます。

では、畑委員。

【畑委員】 医師会の畑です。

少しだけなんですけど、この備蓄倉庫の整理を行い、何がどこに入っているか分かるようにすべきだということなんですけど、私もちょっと備蓄物資とか保存しているんですけど、すぐどこに行ったか、何があるのか、人間の記憶ってすぐ浅はかで忘れてしまうので、もし可能であれば、何かこういう倉庫みたいところに何があるかというのをちょっと図みたいなのやつで。

【原田委員】 一応、表。

【畑委員】 表みたいなのを出している。

【原田委員】 はい。

【畑委員】 それなら、それを見たら分かる。

【原田委員】 一応。ところが、そういう訓練が終わったときに、しまうときは1人で全部しまうわけじゃないんですね。ですから、ばばばばっとみんながしまっていてくれるので、ですから、どうしても後で私が見たときに、どこにどういったのかなとか、それから役所の方が備蓄に入れておきましたよというような形のものが入って、その奥のほうに我々のものが入ってしまっているとか、そういうことが毎回あるので、1回ずつそれをチェックしながら次のときというのは、ちょっと難しいんですね。

【畑委員】 だから、しまう方法とか決めておけば、探すのが楽になるかも分からないですね。

【原田委員】 一応、表に丸はつけておるんです。この倉庫には、これが入っているとね。

【畑委員】 私、地元が堺なので、いつも備蓄倉庫に一体何があるのかなといつも疑問に思いながら、ちゃんと書いてあるんだったら、全然問題ない。

あともう一つ、i i s u m i のことなんですけど、医師会、ちょっと成績が悪くて頭をかかえているんですが、この106施設とかありますよね。住吉区全体で、大体ざくっと何%ぐらいがこのi i s u m iに入っているか、ある程度分らないと、この薬剤師会も82施設と言われても、薬局というのは住吉区に何件ぐらい、仮に160件あるとしたら、i i s u m iに参加しているのは半分だけだと。この半分だけの状況しかないという、本当は100%入るのが一番いいんですけども、ただある程度全体の数も、横にちょっと書いておいていただくと、半分ぐらいのところの話なのかなというのが分かりますので、また、調べるのも難しいと思いますけど、ざくっと、大体でいいと思います。

【生田委員長】 医師会は、ちなみに。

【畑委員】 医師会は、年々新しいのが入ったり、また閉院したりで、正直言って、正確な値というのは分からないんですけど、大体百五、六十ぐらいあるんですけど、参加してくれているのが、これだけの割合なので、あとこういうデータを集約したときに、もうエクセルか何かで、もう用意しておけば、今、全体、どれぐらいが被害、全体に受けているかというのも、またツイッターか何かで出しておくとか、一般の人、もう住吉区の医療機

関はほぼ全滅かなとか、半分ぐらいは動いているとか、そんな認識もちょっと情報も流しておくの良いかなと思います。また、すぐには難しいかも分かりませんが、御検討をよろしくをお願いします。

【小林地域課長】 地域課長の小林です。

まず1つ目の備蓄物資の件ですけれども、備蓄倉庫にはこういった写真付きのこういったものが入っているかというものを掲示させていただいています。ただ地域によっては、備蓄倉庫が何か所にも分かれているところがあるので、その倉庫の中に何が入っているかというのを表示したいところではあるんですけども、期限切れのものとかがたくさんありまして、それは危機管理室から搬送業者に頼んで、そこにどんっと放り込むというようなことになっているので、それが年に何回もあるんで、その辺の整理の機会をたくさん設けないと、なかなか整理ができないというような状況になっております。その点については、地域の方々と御協力をしていただきながら、今後やっていきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

次に、i i s u m i の加盟については、医師会については今、畑先生のほうからおっしゃっていただきましたが、薬剤師会については、薬剤師会全体で入っていただいておりますので、加盟していただいている薬局全てがこちらに登録されているというふうに、こちらはお聞きしておるところです。歯科医師会については、110ぐらいたしかあったと思うんですけども、約9割近いところが入っていただいているという形になっています。訪問看護ステーションについては、たくさんあると思うんですけども、ちょっとこちらのほう、協力いただける機関だけということで、母数については、またこちらのほうで改めて各会のほうに確認させていただきたいと思います。福祉避難所、災害時避難所については、全てこちらでマックスでございます。以上です。

【生田委員長】 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

松岡委員、お願いします。

【松岡委員】 松岡です。報告ありがとうございます。

まず1点目なんですけれども、15にありました区災害対策本部のi i s u m i 担当の方が、集約した情報をマッピングし可視化とありますけれども、具体的にどういうシステムで、どんなふうに分かるものなのか教えてほしいなと思いました。

もう一点が23ページ、一番最後のページの改善すべき点のところの簡易トイレのセット

の分なんですけれども、簡易トイレ1つとっても、結構な費用がかかるかなと思っています。最低限の下水道が使えないという想定で、行政が最低限は何日かは確保するという事で予算があるものなのか、やはり予算も限界があり、これが市民として私自身も、個人としての備えもやはり重要かなと思っておりまして、そういった一人一人の自助の部分の啓発とかで、どういったところが検討できるのかな、私たちも協力できるのかなというところがあったので、もし何か案とか検討されていることがあれば、教えてください。

【小林地域課長】 地域課長の小林です。

まず1点目の i i s u m i から報告いただいた情報というところについてなんですけれども、15ページのほうに、地図上に載っている情報がマッピングされている模様が載っておりますが、このマッピングするのに、いろんな情報を入れていただいているのを G o o g l e マイマップというものに、入ってきた情報全てを C S V で出力して、それを G o o g l e マイマップに落としますと、一度にこのマップ上に掲載されるような形になりますので、また皆さんもやってみてもらいたいと思うんですけど、エクセルで何個か項目を入れて、それをマイマップに放り込んでもらおうと、それぞれのポイントごとに、例えば畑先生の医院が開院であるかということで、医師会の情報だったら、医師会の情報だけを選択して、開院のところは青にするとか、閉院のところは赤にするとか、色を変えたりできるので、それをいろんな情報を入れ替えることで可視化できるというような形になっておるところでございます。ちょっと分かりにくい説明かもしれませんが、また生田先生にも補足していただけたらと思います。

またもう一つ、簡易トイレの件なんですけども、大阪市は一律、各避難所に300人分の物資を用意しようという形になっておるところでございますが、それでも足りない分は、区の予算で補っているところがございます。一旦、1日分の備蓄物資があれば、先ほど次井のほうからも申しあげましたように、住吉区の防災倉庫、阿倍野の大阪市全体の防災倉庫にも物資はありますので、そちらから搬送するという方向になっております。

もちろん松岡委員に言っていたように、自助というものも我々、すごい期待しておるところでございます。本当にこれでは多分足りないと思いますので、御自分で3日ないし1週間分の備蓄を御用意してくださいというふうをお願いしておるところでございます。ただ、トイレについては水が流れる、流れないもありますし、凝固剤がなければ新聞紙等で対応もできますし、いろんな方法を区民の方に周知してまいりたいと考えております。以上でございます。

【生田委員長】 ありがとうございました。

先ほどのG o o g l eマイマップは、共有公開設定みたいなのをされていれば、それをメールやツイッター等で見れば、誰でも見ることができるという仕組みですよ、ということだと思います。かつては、かなり高度なシステムを使っていたものが、今、G o o g l eなどでほぼタダできてしまうというのが、時代が変わっていますので、各地域での防災活動にもG o o g l eマイマップなんかを使われているところも、最近増えてきております。

また、やはり簡易トイレもワンセットで、どれぐらいするんですかね。100円とか、するんですかね。

【小林地域課長】 そうですね、はい。

【生田委員長】 そしたら、1,600セットをそろえようと思うと、それだけで16万円かかってしまうので、それが全部の避難所となると、数百万とかいう話になってきますので、かなりこれを急に増やすのも限界があるということで、自助のところで、もうちょっと充実させないといけないということだと認識しました。ありがとうございます。

どうでしょう、小林委員は、地元の訓練を振り返って、御感想等ありますでしょうか。

【小林委員】 小林です。

今回の訓練は皆さん、御存じのように、2年連続コロナで、一般の方は参加がないんですよ。それでも防災訓練をやりましたら、やはり地域の役員や防災リーダーで、各種団体の代表さんぐらいしか参加できなくて、2年連続そういうことがありました。最初の年はここにあるように、テントを作ったり、トイレをやってきたりとかいうのをやっていたんですが、2年目となると、ちょっと目先を変えまして、まず人命救助をやらなきゃいけないということで、一時避難場所に運搬のリアカーとか、簡易の担架とか、どうやって運搬するか、手押し車でどうやって運搬するかということと、小学校入ってから、避難所が入ってから、避難所の設営ではなく、一番大事なのは食事のほうでアレルギーというのが問題になっておりまして、まず特定原材料7品目。それに準ずるものとして21品目があるという事は、まず皆さんに認識していただいて、要するに聞いた話なんですけど、結局3日間、そのアレルギーがあるために、食事ができなかったという話も聞いていましたので、食事はなるべく複数作って、何が使われているかということをよく裏に書いていますよね、成分表。あれを貼りつけてくれと。本当にアレルギーを持っている方、あるいはその親御さんは、すごい敏感にそれを見るので、こっちから何使っていますと言うよりか、貼っておく

ほうが効果的だということで、そういうふうな方向で食事とか、そんなのを提供しましょうと。今回は、そういうちょっと目線を変えたところでさせていただきました。

【生田委員長】 ありがとうございます。

非常に新たなところで工夫をされてということがよく分かりました。ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

来年度の訓練に関しての御意見は、また後ほど伺いますので、では次に移りたいと思います。それでは議題（１）「令和４年度住吉区総合防災訓練の実施概要について」、事務局から報告をお願いいたします。

【次井地域課担当係長】 地域課防災担当係長の次井と申します。

私のほうから資料４の「令和４年度住吉区総合防災訓練の実施概要について」、御説明させていただきます。

まず、実施日時ですが、令和４年11月12日土曜日９時から12時という形で、参加者なのですが、先ほどのアンケート結果も踏まえまして、一般の方も含めた区内全12地域活動協議会の皆様や、各関係機関の皆様に御協力いただきたいと思いますと考えております。

訓練内容ですが、一般参加者も含めますので、各地域の訓練内容について、避難所運営委員会の訓練内容に避難者受け入れ、避難者誘導訓練なども加え、実施していただこうと考えております。重点項目につきましては、同様の訓練を引き続き行うことで、一時避難場所から災害時避難所への避難訓練、地域災害対策本部避難所運営委員会の設置・運営訓練を充実させてまいりたいと考えております。

1枚めくっていただきまして裏面ですが、各関係機関との連携訓練は引き続き、御協力いただきたいと思いますと思っていますが、こちらのほうは、小中学校の児童や生徒の参加を加えまして検討をしております。中止、縮小につきましては、昨年度と同様の内容になるんですが、新型コロナウイルス感染状況によりまして、総合防災訓練の実施概要を変更する可能性がございます。畑先生にも御意見を賜りたいと思っています。

その下は、区災害対策本部の訓練なので、以下のとおりという形になります。

次の別紙のほうなんですけど、こちらは事前意見ということで、原田委員のほうから頂いている内容ですが、住吉区総合防災訓練の日程についてですが、11月の第２土曜日となっているが、毎回でなくてもよいが、日曜日に変更することは可能か。防災リーダーは土曜日が休日の方ばかりではないため、一度も総合防災訓練に参加できていない方もいるとい

う御意見につきましては、区役所や各地域、地域関係機関等において、総合防災訓練の定着化や小中学校との土曜授業と連携という観点から、平成29年度から11月の第2土曜日を総合防災訓練の日として実施しています。各小中学校等の避難所施設において、例年11月の第2土曜日を総合防災訓練実施日として施設利用の調整をいただいております。令和4年度においても11月12日の土曜日で調整していただいているため、日程の変更は困難な状況です。今後の防災訓練の日程等につきましては、様々な御意見を踏まえ、検討してまいりたいと思っております。地域ごとの防災訓練については、できるだけ日曜日に開催を検討していただくよう、より多くの方に参加していただきたいと考えております。以上になります。

【生田委員長】 ありがとうございます。

それでは、ただいまの報告に関しまして、御質問等いかがでしょうか。

原田委員、お願いいたします。

【原田委員】 原田です。

今の日程の件ですけど、私もいろんな団体の方がおられるので難しいよということは言っているんですけども、皆さんの中に最初から第2土曜日は休みですかと聞いて、それで集まってもらうほど余裕はないんです。それと、やっぱり若い方がたくさん出てきてほしいものですから、だからできるだけ若い方ということになると、どうしても会社のほうでも、まだ少し地位も低めで無理は言えないということで、どうしても第2土曜日に会社が出勤のときには、有給を取ってまで難しいということで、なかなか参加していただけないと。その件については、後で個々にお話もしているんですけども、なかなか、さて、本番になったときに、うまく動いていただけるかなというようなところがありまして、一応そういう希望が出てきていましたので、一応ぶつけてみようかということで、質問事項としてさせていただきました。

もちろん、私のところの地域だけでやるのには、多分大抵日曜日の日を使っておりますので、そっちには参加してくれるんですけど、やはりこの組織的な一時避難場所云々から始まってというような形のところは、私のところの地域だけで、なかなかそれはできないものですから、そこら辺のところ、ちょっと無理でしょうねと私は思っているんですけども、一応そういうことで質問させていただきました。以上です。

【生田委員長】 ありがとうございます。

何かありますか。

【小林地域課長】 地域課長の小林です。

本当に日曜日に開催してほしいという意見もたくさんあるんですけど、逆に固定してほしいという意見もたくさんありまして、実はこの総合防災訓練を11月の第2土曜日にすることによって、例えば長居小学校の音楽祭が、いつも11月の第2土曜日だったんですね。それをわざわざ第3土曜日に変更していただいたりとか、住吉の研修会みたいなものも第2土曜日にあったのを別の日にしていただいたりとか、いろんなところと調整している関係で、あまりころころと変更するのが、本当に申し訳ないんですけど難しい状況なので、地域の訓練をできれば日曜日に、模擬訓練を日曜日にしていただくとか、ちょっと工夫をしていただきたいというふうに考えておりまして、何年かに1回とか日曜日にするとか、また今後、検討してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

【生田委員長】 ありがとうございます。

これは畑委員、やはり土曜日の午前中というと、診療中になるところも多いんですよ。

【畑委員】 医師会の畑です。

正直言って、開業医は土曜日の午前中は結構患者さんが多く来られるので、なかなか土曜日の午前中というのは、休むのはちょっと難しいかなと。でも一方、土曜日の昼からは結構出て、昔やりましたよね。医療のほうの災害の訓練、たしかあのときは土曜日の昼からで、私がここで頑張って、もうコーディネーターかな、何かやって、みんなに責められ続けられましたけども、もしかしたら土曜日、昼からだったら参加できる人もいるかも分からないので、今後やっぱりいろんなパターンか決めるかなんかで、アンケートを1回取ってみて、実際どういうのが一番いいかというの、また検討されるのが、すぐには難しいかも分かりませんが、取りあえず、どうしても土曜日出てこられない人もやっぱり出たいけど、出られないという人が、大体実際何人ぐらいいてはるのかとか、ちょっとその人は何曜日だったらいけるのかとか、ちょっと1回聞いてみるというの、調べてみるのもいいかなと思っております。以上です。

【生田委員長】 ありがとうございます。

それこそ、夜間にやっているようなところももちろんありますので、津波避難とかですね。いろんなバリエーションを考えてみるのもいいかなと思います。

ただ、今年度は選挙と重なるというか、11月、次の日が選挙になりそうで、ちょっとひやひやしたところもありましたけど、やっぱりちょっと不確定要素が多いというの、なかなかつらいところかなというふうに思っております。

その他、次年度のところでいかがでしょうか。

小林委員、お願いいたします。

【小林委員】 小林です。

ちょっと愚問になるかも分かりませんが、防災訓練が9時から12時までの3時間なんですよね。防災訓練の担当されている方、これは3時間で足りませんか。

私だけかも知れませんが、一時避難場所でやらなきゃならない仕事というか、項目、その後、小学校へ移動して、小学校のみんな、住んでいるところの仕分けをしたり、いろんな項目がありますので、炊き出しをやる方のこういう道具の扱い方、仕方、ベッドを作ったり、テントを作ったり、簡易トイレを出したり、倉庫に何があるかというのを一応出して、皆さんに見てもらおうとか、とても3時間ではできないんですよ、実際のところ。どれか1つ1点に集中して、それだけをやるということをしないと、全体を把握できるだけの量をこなすというのは、ちょっとできないので、皆さん、この3時間というのをどう考えられるかなと思って。日にち、またばらしてやればいいじゃないかという話もあったんですけども、毎回毎回、人がそう出てくるというのも、また難しい話なんですよね。もう3時間で帰りたいという方もおるし、実際やるほうとしては、こんなもの、3時間ではとてもじゃないけど、できないというジレンマがあるんですけども、何か解決する方法はありませんでしょうかね。

【生田委員長】 これは、いかがでしょうか。実際地域でやって、どう運用されているか、多分いろいろあるんでしょうかね。町会と避難所はもう別の方がやるとかいうパターンもあるんですよ、多分

原田委員、お願いいたします。

【原田委員】 原田です。

今の小林さんのことも私のところも同じようなことで、区のほうからは9時に始めて、11時半には大体終われと。ということは、3時間ないですよ。2時間半ぐらい。そのうち、一時避難場所から今度は避難所のほうというか、みんな、移動してくださいというのに一応私のほうでは9時に始まって、10時にはもう一時避難場所は撤収して、みんな、避難所のほうに来るといような形を取っているんですけど、そのときに私のほうでは、防災リーダーの半分の方は、初めから避難所に来る。それから、後の半分は各地域において、そっちのほうの手伝いをいろいろやるという形で、後からは皆さん、来られたときは全部の防災リーダーと一緒に、町会長もですけども、一緒になってやると。そのときに、まず

一時避難場所から来る人たちについては、後から仕事をしていただきますが、先に避難所に私をはじめ、一応防災リーダーの方々は15人ぐらい先に来るんですね。そこで受付を作ったり、それから部屋の掲示物を貼ったり、それから表の門を開けて、ですけど、早くから開けていると、みんな入ってきてややこしいので、各町会は10時以降でないと入ってきたらだめだと。その前に、まず無線の訓練をして、そこではい、オーケー、それなら、おたく、どうぞ来てくださいということで、それでも来て、5分か10分たないと会場に着きませんから、そういうふうな形でやって、最終的には今度、みんなでもっとやろうというような形を取っているんですけど、それでもぎりぎりですね。私、今年までは一応区役所からの要望もあり、こういうことを今年はやってくださいということでやっているんですけど、それだけやるだけで精いっぱい、本当に地震が来た、大地震が来たときにどうするかということを真剣にこれから皆さんが避難してきたときの、どのような形で避難所を作っていた中で動いてもらうかというやつを今、モデルを作っておるんです。そっちのほうは早くやらないと、一回一回、訓練、訓練と言っている、ばらばらな訓練ばかりなので、そのとき、そのときの一時しのぎ的な訓練が多いものですから、だから本当に来たらどうするんだということをこれから真剣に考えていかないと、今、30年以内に90%、今年からなりましたよね。南海地震が90%。ですけど、ずっと30年なんですよ。30年で90%って、これからもみんな、まだ30年先かいなみたいな感覚でいるんですけども、実際にこの間から私、いろいろ調べていた中で、2035年に来ますよという、そのプラスマイナス5年ということで、2030年から2040年ぐらいの間に、南海地震が来ますという説があるんですね。それは室津という、兵庫県の岡山県に近いところの室津港という港があるんですけど、南海地震があると、ぼっと隆起するんですね。毎年1センチから1.3センチぐらいの間で、今度は沈下していつているんです。ゼロになった頃に、また次、ぼんと来るんですね。その計算をしていくと、2035年ということに計算上はなるので、誤差は多分プラスマイナス5年みておいたらということになってくると、2030年からもう8年ぐらいから危ないということなので、それだったら、もう本当に来るということマニュアル化しないと駄目だわというふうに思って、この前から副本部長と防災リーダーの隊長というか、副隊長とか、その辺の人たちと集まって、こういうふうにしていこうと。こういうことを訓練しようというふうな話にしてきたんですけども、うまくこれがなかなか時間の問題というのがまず、ですから本当は先ほど昼からという意見もあると思いますし、昼からだったら、まだ1時から始めたら5時ぐらいまで。大分時間があるのかなというふうにも思う

んですけども、その辺のところは、役所のほうの考え方もあると思いますので、一応私のほうでは、そういう考えで今のところいています。以上です。

【生田委員長】 ありがとうございます。

あとはどうでしょうか。福祉避難所等の訓練などもあると思うんですが、松岡委員、上田委員、いかがでしょうか。せっかくですので、何かこんなのをやってみたいとかあれば。

【上田委員】 上田です。

訓練の中に福祉避難所への訓練も入れていただけるなら、いただけたらなという話をしようかなと思ったら、時間がないというお話をされたので、申し訳ないなと思って、言うに言えないなと思っておったんですけども、やっぱりコロナで、なかなかその辺ができていけませんので、今、ライフサポート協会さんのほうで、福祉避難所の開設のDVDもお作りいただいているというところで、たまたまですが、私どもの施設も8年ぐらい前に、この防災訓練の日に避難所開設訓練をさせていただきまして、非常に勉強になりましたし、地域の方との連携もそのときにできました。

話がずっと戻ってしまうので、一番最初に高齢者施設、ちょっと話が戻ってしまうんですが、最初の資料2のところ、意見の中で福祉、あそこは施設が関係しているから、地域で見守るのが一番だけでも、あそこは施設が関係しているからいいなということになると、抜け落ちる部分があるというお話もあったということで、施設としてできることと、またできないこと、また施設の役割というの、そういう訓練の際にも、しっかり意見交換ができるんじゃないかなというふうに、福祉施設が、どういう役割を果たしてくれるのか、災害時には、どういう具合に助けてくれるのかというの、この訓練のときに意見交換ができるんじゃないかなと思いましたが、もしコロナが落ち着いているようであれば、福祉避難所への誘導訓練等ができればなというふうに思いました。非常にお忙しいので申し訳ないのですが、また御検討いただけたらと思っております。

【生田委員長】 ありがとうございます。

松岡委員、何かありますか。

【松岡委員】 松岡です。

私たちの法人では、自分たちで開設訓練を過去何回かやってきたんですね。本当に自前で、自分たちがあるもので、自分たちが持っている知識だけでやってきたところがあって、毎回これ、大丈夫かなと、そもそも職員が無事で、どれだけ生き残って、何時に起きるかにもよると思うんですけども、そのあたりは非常に頭を悩ませていたところでした。直

接避難されてこれないということは、十二分には了解しているんですが、多分1点、皆さんもそうだと思うんですけども、たくさん利用者さんがいらっしゃって、利用者さんが混乱して、直接避難して来る。自分たちのサービスのゲストさんが、御家族とともにというのが、いっぱい想定されるなど感じていまして、地域の方にどうやって福祉避難所を使っていただくのかというところを知っていただくという意味でも、私もこういった訓練の中に誘導訓練、まずは一旦災害時避難所に行ってくださいというところから、一緒に確認をしていくということは、とても大事になるかなと思っています。と同時に、私たちも基本、自分たちの施設の備蓄は、自分たちでそろえるということが基本になっているんですが、本当に災害備蓄の物資が高くて、本当に計画的に、少しずつ、少しずつそろえているような状況がありまして、私たちもまだまだ不安の中でやっているところも事実なので、ぜひいろんな御意見を頂きたいというのは、率直に思っております。

【生田委員長】 ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

では、次に進ませていただきます。

議題の(2)「大和川氾濫等の水害に備えた防災力強化アクションプラン(第2期)の策定について」、事務局から報告をお願いいたします。

【次井地域課担当係長】 地域課防災担当係長の次井です。

私のほうから、資料5の「大和川氾濫等の水害に備えた防災力強化アクションプラン」を御説明させていただきます。

1枚めくっていただきまして、1ページの趣旨なんですけど、中段あたりになります。令和元年5月に第1期を策定しまして、様々な取組を行ってききましたが、継続して取組を実施する必要があるため、今回、第2期も策定させていただきました。今回、アクションプランでは、17の国際目標、SDGsのうち、目標13の「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」と特に関連が深いことから、これの目標の視点も踏まえたものをさせていただいております。

取組目標ですが、全ての区民が大和川が氾濫した場合の浸水想定を把握し、正しい行動が取れることにより、「逃げ遅れゼロ」をめざしたいと思っております。

取組期間ですが、令和4年度から令和6年度までの3年間としております。

1枚めくっていただきまして、2ページと3ページをちょっと両方見ていただくような形で開いていただきたいんですけども、2ページのほうには、第1期のプランの内容を

ちょっとお示ししては、まず（１）の「浸水想定、避難所情報、避難行動の目安等の周知・啓発」ですが、こちらの１から６までの項目につきましては、継続項目とさせていただきます。そちらの継続項目については、その右の３ページの第２期のほうに継続項目して掲載させていただきます。７、８につきましては終了項目ということで、個別には後で御説明させていただくのですが、その下の（２）の避難所開設訓練の実施と、その次のページの（３）の備蓄物資の配備等につきましても、同様に４ページ以降に掲載させていただいているという状況です。

まず２ページのほう、第１期の１、広報すみよしへの掲載ですが、こちらは１面と見開き面に水害ハザードマップ及び取るべき行動等を掲載ということで、こちらは３ページのほうの第１期のほうの１番のほうに継続項目ということで載せさせていただきます。毎年度、おおむね６月号に掲載させていただく予定となっております。

続きまして、２ページのまた第１期のほうの区ホームページの啓発情報の掲載なんですけれども、こちらのほうは５ページを御確認いただいでよろしいでしょうか。５ページのほうに、ホームページにおける掲載情報ということで、名称とURLとQRコードを載せておまして、上からですが、現在の大和川の水位情報ということで、一番下に確認いただける大和川ライブカメラのイメージを載せさせていただきます。その下、大和川氾濫等の水害への備えとして、取るべき行動、地域ごとのハザードマップ、マップナビおさかや地点を検索すると、ピンポイントで浸水想定が表示される浸水ナビを載せさせていただきます。その下は啓発動画になっておまして、大和川氾濫等の水害に備える啓発動画というタイトルになっております。その下は、水害をはじめとした避難行動等の啓発資料ということで、ハザードマップなどの啓発資料を掲載させていただきます。

また戻っていただきまして、２ページですね。３番のほう、地域ごとの浸水想定図の配布ということで、地域ごと、12地域の浸水想定図を作成し、区内全世帯に配布を令和２年度に実施させていただきます。こちらのほうは後ほど、12ページから23ページを御覧いただきたいと思っております。こちらは先ほどの３ページのほうの３番のほうに、継続項目としてさせていただきます。こちらは水害をはじめとした避難行動等の啓発資料を随時更新し、全戸配布を毎年度、実施させていただきたいと思っております。

続きまして、また２ページのほうの先ほどの４番、５番のほうですが、浸水想定表示の掲示と浸水想定表示プレートの交付ということで、６ページを御覧いただいでよろしいで

しょうか。6ページのほうにちょっと載せさせていただいているのですが、第1期のほうでは、大阪市広報板67か所に、町会掲示板へは499か所、関電柱548か所、福祉避難所35か所を令和元年度から令和3年度に実施をさせていただいている状況です。続きまして、その下の浸水想定表示プレートですが、希望者に対して自宅等のピンポイントの浸水想定深を記載した浸水想定表示プレートを交付させていただいております。6ページの一番下の右のほうのプレートになります。こちらのほうも、4番、5番は戻っていただいて3ページの第2期のほうですね。そちらのほうの項目で、継続項目とさせていただいております。4番の浸水想定表示のほうの掲示につきましては、水害時避難ビル88か所103棟と、災害時避難所37か所に、令和4年度は長居公園通以南、令和5年度は長居公園通以北に掲示を予定させていただいております。5番のほうの浸水想定表示プレートにつきましては、イベントや窓口で随時交付を考えております。

また2ページのほうの第1期のほうなんですけど、6番のミニ防災フォーラムの実施ということで、こちらでは大和川に隣接している遠里小野・清水丘・山之内・依羅・荻田南、全47町会のうち、危険度の高い町会から選定し、各年5か所、15町会を実施予定とさせていただいたのですが、コロナのためにちょっと未実施ということで、こちらのほうも3ページの6番のほうで継続項目とさせていただいております。大和川氾濫時の浸水の影響が特に大きい3地域の遠里小野・清水丘・荻田南につきまして、フォーラムを実施予定を考えておまして、横のつながりを強化するため、地域合同のフォーラムを検討させていただいております。こちらは、令和4年度から令和6年度にかけて各1地域を予定させていただいております。

2ページのほうのまた第1期の7番なんですけど、啓発動画の作成なんですけど、こちらのほうは、畑先生にも御協力を頂き、作成した啓発動画を区ホームページ及びYouTubeに令和元年度に実施済みではあるんですけども、こちらのほうは終了項目とさせていただいているんですけども、3ページの第2期の2番の区ホームページに啓発情報の掲載の項目内容に含めまして、随時更新をしていきたいと思っております。

あと2ページの第1期の8番ですが、大和川右岸水防事務組合との連携ということで、こちらのほうは水防団と自主防災組織のどちらにも所属している方がたくさんいて、混乱を招いていましたが、水防団長に確認したところ、災害時避難所の任務に就くことを考慮していただき、それ以外の方で対応していただけると確認していますので、一旦終了をさせていただいております。地域でそのほかの御要望があれば、区役所へ御相談いただければ

と考えております。

続きまして、(2)の「避難所開設訓練の実施」のほうですが、こちらのほうは、浸水が想定される避難所において、避難所開設時の開設手順や避難スペース等について、地域役員等と現地確認を実施ということで、こちらのほうは鍵の確認や教室の変更もありますので、毎年度実施が必要ということで、その1枚めくって、4ページのほうの裏面にあるんですけれども、継続項目として載せさせていただいております。その下に新規項目として、避難所開設セットの充実としまして、特に水害時に開設する避難所として、小・中・阪南高校におきまして、水害時を想定した内容を記載するなどの充実を図ってまいりたいと思っております。実施時期なんですけど、大和川氾濫時に浸水の恐れが高い地域の4地域ずつを実施していきたいと思っております。

また3ページのほうの(3)ですが、「備蓄物資の配備等」ですが、こちらは水害時避難ビルへの備蓄物資の配備ということで、こちら8ページを御覧ください。こちらのほう、ちょっと3ページのほうで掲載しています、ちょっと布担架のほうはちょっとお写真がないんですけれども、こちらのほうを水害時避難ビルの市営住宅などの場所に103棟中88棟配備をさせていただいています。こちらのほうも、次のページの4ページのほうに継続項目ということで載せさせていただいております。まだちょっと配備未実施の水害時避難ビルもございまして、そちらについて引き続き、自治会や管理組合等と協議を行って配備を進めるとともに、新たに水害時避難ビルで御協力いただけるところにも、随時配備していきたいと考えております。

その下なんですけど継続項目で、備蓄物資置場の検討ということで、こちらのほう、9ページを御覧いただいてよろしいでしょうか。9ページのほうに、区内37避難所中、大和川の氾濫で浸水がちょっと想定されている避難所のほう、24か所をお示ししています。こちらのほう、丸のほうにつきましては、既に実施をさせていただいたところでして、三角は一部実施済み、あとバツがちょっと未実施の施設となっておりますので、こちらのほうも継続して進めていきたいと思っております。

あと最後のページなんですけれども、別紙ということで、お付けしている畑委員のほうから頂いている事前意見のほうですね。1つ目がJRの高架(駅)はキャパシティもあり、大人数が避難できると思われる。JRの考え方や計画等を事前に調べておいてほしいという御意見につきましては、JR阪和線我孫子町駅と長居駅は高架化されており、水害時には一時的に避難できる場所として有効であると考えます。JR西日本と水害時避難ビルの

指定の可否等についての協議を検討してまいりますという対応なのですが、こちらのほうなんです、昨日、JR西日本のほうから連絡がありまして、協議の日程を今、調整させていただいているところでございます。

続きまして、その下の2番のほうの苅田地域の水害ハザードマップ21ページについて、全面同じような色なので、どちらの方向に避難すればよいのか分かりにくいという御意見につきましては、避難すべき方向が分かりにくい地域もあるため、区全体版の水害ハザードマップ11ページを掲載しまして、広域において避難すべき方向を確認できるように、見直しを行わせていただきました。

11ページを御覧いただいてよろしいでしょうか。11ページのほうに区内の全体版ということで御確認いただけると思うのですが、色がついていない白で表示されている場所は、浸水の恐れが低いところになりますので、こちらをめざして避難していただきたいと考えております。以上になります。

【生田委員長】 ありがとうございます。

ただいまの御報告について、御質問等いかがでしょうか。

では畑委員、お願いします。

【畑委員】 避難ビルというのがありますが、住民ってすごくたくさんいるので、みんながビルに駆け込んだからといって、正直言って、上のほうまで行けない人がいっぱいいたと思いますし、また住んでいるところだから、もうみんな、鍵を閉めて中に入れないようにされるような気がして、屋上には多分、屋上に逃れたら、まだ結構人数がいくんだけど、今は危ないから、ほとんどの建物というのは、屋上には鍵がかかっているから出られないので、キャパシティ的に、もしみんなが上に逃げたときには、とても足りないなと思っていたんですが、JR阪和線のレールの上まで行けたら、かなりの人数がここへ行けると思うので、そやけど転んで骨折するかも分からへんから、またJRの人も嫌がるだろうと思っています。

東日本大震災のときも、津波が鉄道のこういうところで、ちょっとせき止められていて、助かったような動画も僕も見たことがあるので、結構鉄道のおかげで助かる人もいてということ。住吉区は直接関係がないんですけど、高速道路はどうなっているのかなと思って調べたら、やっぱり考えているみたいで、特に住之江の人なんかは、もう住吉区に行く前に高速道路の上を上がって、みんな、逃げていったらいいかなと思ったぐらいです。JRも逃げて電車が来たら、ひかれて死んじゃうので、どういうときに本当に止まる

かというのだけ確認させてもらったら、また上に行けるんじゃないかなと私は思っております。

あと2個目のどっち向いて逃げたらいいのかというのも、本当に実際この北のほうに行けばいいのか、もう南のほうに行けばいいのか、西のほうに行けばいいのかというのがシミュレーションを見ると、どこの堤防が破れるかで、水の回りが違うんですね。そこまでいくと、かなり複雑になるので、なかなか難しいところではあるんですけども、この地下鉄の我孫子沿いが一番深いみたいで、仮にこの区役所はどこから水が来るといったら、もうそこから水がぐっと回ってくる格好になるので、へたに水の回る方向に逃げると、またぼつとかかるということもあるので、もうちょっとそれぞれの地区で、本当にどっちから来るとい、せめてシミュレーションを見ながらちょっと考えたほうがいいのか。またちょっと動画も作り直さな、逃げるとい、一番重要とするところの分だけでも、ちょっと作らなあかんのかなと思っております。以上です。

【生田委員長】 ありがとうございます。

原田委員、お願いいたします。

【原田委員】 原田です。

今、畑さんのほうからおっしゃったような私のほうもそういう、私のところは4.2メートルぐらい私の家は浸かると。これは堤防が決壊して、時間がたってきて、一番多いときの話ですけども、取りあえずそれまでは、どんどん、どんどんと水が出てくるということで、もう逃げるといっても、膝より上で水の流れがきついと、もう歩けないですし、ひっくり返ったら、もう起きられませぬので、それまでになるべくみんな早く逃げよう。うちの場合は、とにかく南海の高野線の東側、大和川中学校をめがけて逃げよう。というのは、堤防が山之内では崖になっているような形の堤防なんですね。私のところは、もう両側が天井川みたいになっていますので、水が決壊してしまったら、もうどつと下がって流れて落ちてくるという格好になりますから、どうしてもそういうふうなのが、それで今おっしゃったように、JRのほうで云々、線路に逃げるとい、そのような話をしておられますけれども、先日、南海の高野線を高架にするというところで、この間も南海の人たちと会いまして、まだまだ先になるかもしれないけども。そのときに、線路の下側に1つ部屋を作ってくれと、1段。というのは、これは本線の住ノ江駅を見に行っていたら分かるんですけども、ガラス張りの何を置いているか分からないので、この間、駅員さんに聞いたら、さあ、何に使っているんでしょう、私は分かりませんということなんですけど、

外から見ると、両側にガラス張りの2階があるんですね。その下は商店がみんな、入ってはるとか、スポーツジムみたいなものがあるんですけども、その上にずっと駅の近くは高さ何ぼぐらいありますか。5メートルぐらいの高さまで来ていると思うんですけど、そのぐらいのところにずっと大きな、だからそういうものを1つ作ってくれと。そしたら避難するのも、避難するとか、ただ逃げただけじゃなくて、そこで多少生活とか、できるんじゃないかと。小学校等が今、避難所になっていますけど、これは学校は落ち着いたら授業はしたいから、この部屋は出てくださいとか、いろんなことを言われると思います。だから、普通、災害があったところは仮設住宅を造ったりとか、いろんなことをされますけれども、それまでには時間がかかると思うんです。ふだんは物置でいいから、そこに、そういうときには逃げさせてほしいと。今、私のところの辺では、我孫子前の駅になるんですけど、我孫子前の駅から100メートルか、そこらぐらいはずっと2階を造ってくれと。小林さんのところの清水丘のほうも、逃げる場所がないとおっしゃっていた。それを沢ノ町の駅のところから100メートルぐらいの間のところ、神社の上ぐらいになってくるかと思うんですけど、その辺にそういうものを造っておけば、逃げていくときに、それは何年先になるか分からないですけど、希望として、そういうことを南海のほうにも申しあげているんですけども、そういうのができたら、現実に住ノ江の駅がそういうふうになっていますので、あれと同じようなものを造って、何に使っておられるか、物置なのか、資材を置いているのか、何をしてはるか、ちょっと中は分からないんですけど、そういうときにはいちいち使わせてほしいというような形をお願いして、この前には要望だけは聞いておきますということになったんですけども、そんなこともあったので。

それと、このハザードマップの地図なんですけども、前からも言っているんですが、3メートルから5メートルの色がピンクだと。皆さん、3メートルと呼びはるんですよ。うちは3メートルやと。みんな、5メートルと思わない。ちょっとでも楽観的とか、そういう心理が、うちは大丈夫というような形になって、どうしてもこの地図だけでは、よく分からないと。ただ、浸かるんやなというような方が多いので、私のところの場合は、電柱に關電さん、NTTさんの御協力を得て、テープを巻いてあるんですけど、ここまで来るぞと。そしたら、逃げてくださいと言ったときに、俺のところ、大丈夫やわということもふだんから、ここまで来るんかいと、2階も浸水するからあかんというふうなことになってくるんじゃないかなということで、大分時間がたってきてますけども、そういうふうなものも、一応先もってやっていこうと。

それと、先ほどトイレの件で、簡易トイレと。昔というか、何年か前に小学校に我々じゃないんですけど、小学校に逃げられた方がトイレがなくて、そのときにマンホールに棒と板を渡して、その上でできるような形で、上から一応テントみたいなもので、目隠しするような、そういうのをやられていたので、それを聞いてから、下水道のほうにお願いして、まず1つは、災害があったときには車を通さなアカンので、道の真ん中のマンホールにそんなの、作れませんというような話だったのですが、一応熱心にやってくれたようだから、ここを使ってもらいましょうというのが、溝のどぶ、これに1つ災害用のトイレができるようなのを2か所作ってくれました。これを後から水を流すという形で、それまでは使ってくださいというようなので頂いたのですが、こんなのは、今、最近は駄目なんじゃないかな。その辺のところは、ちょっと分からないんですけど、そうすると、私のところの小学校なんかだったら、道が突き当たりみたいになっているから、車も通らないんだったらマンホール、マンホールでも雨水じゃなくて、汚水のマンホールでないと駄目なんですけどね。そういうのを一応考えておけば、どうかなというふうに思います。以上です。

【生田委員長】 ありがとうございました。

何かございますか。

【小林地域課長】 貴重な意見、ありがとうございます。地域課長の小林です。

私どものほうから南海のほうにも、原田委員がおっしゃったことを要望のほうはさせていただいておるところでございます。今現在、調整中でございますので、また結論が出ましたら、皆様にはお伝えさせていただきたいと思っております。

ただ、JR、地震等の場合は駅構内から離れてくださいというような形でアナウンスもされたりしますので、水害のときにどういった対応をするかというのをまた確認してまいりたいと思っております。

もう一つ、マンホールトイレなんですけども、住吉区役所の周りにもたくさんありますし、市大や、長居公園の広域避難場所には多くのマンホールトイレがございます。私が住んでいる堺市は、全ての小学校にマンホールトイレが設置されているということで、大阪市もやってほしいという要望は危機管理室を通じて、教育委員会にも申しておるところでございますが、整備の関係でなかなか進んでいないという現状でございます。本当に原田委員のところ、溝に2か所作っていただくというのはすごくいいことだと思いますので、今後、建設局、環境局のほうに設置の要望等、またこちらのほうからも上げていきたいと考えております。実際に写真とかも見せていただきたいと思いますし、ちょっとマ

ンホールトイレの上には建設局、環境局がトイレのカバーを持ってくるような準備もしていただいておりますので、そういったものも合わせてこちらのほうからも要望してまいりたいと思います。以上です。

【生田委員長】 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

松岡委員、お願いします。

【松岡委員】 松岡です。

もし可能であればということで、11ページの上の何メートル浸水のときに、何階までですよという表示が、非常に分かりやすいなと思って、どういった形で広報に載るか分からないのですが、そのページ以降のやつを見ると、浸水想定区域のところに、この表記も一緒に載せてもらったら、非常に分かりやすいなと思ったのと、電柱とか、私たちの施設にも書いていただいている6ページのここ、何メートル浸水というところにも、この11ページの上のこの分かるものがあれば、非常に分かりやすいかなと。出かけ先でぱっと見たときに、何階までだから避難しなきゃいけないというのが、何メートルと言われても、特に障がいをお持ちの方とかで、ぱっとイメージがつかない方もいらっしゃるんですけど、これは非常に分かりやすいなと思いました。

もう一点、これは私だけかもしれないんですけど、3メートルから5メートル未満と、色がすごい似ていて、めちゃくちゃ分かりづらくて、結果、0.5から3なのか、3メートルから5メートル未満なのか、5メートル以上なのかというのが微妙な色分けのニュアンスがちょっと分かりにくいなと思ったので、例えば3メートルから5メートルだけ、ちょっと違う色に変えたり、システム上、できるんだったら分かりやすいなと思いました。以上です。

【大宅地域課長代理】 この色につきましては、いろんな方から御質問とか、御意見を頂いているので、これはちょっと国が統一した形になっていきますので、独自にやってしまったら、また逆に混乱を招くということで分かりにくいんですが、全国でこの色が統一されているということもございまして、そういう形になっておるんですが、今、頂いたみたいに、各地域につきましては、おっしゃるみたいに、具体的にどこまでというようなことを示せたら、皆さんにも分かりやすいのかなということと、あと水害時避難ビル、先ほど原田委員にも言っていたように、屋上に人が集まるようになってしまうんじゃないかということなんですが、そこはちょっとまだこれから検討するんですが、そのビルによ

って何階以上までやったら大丈夫ですよというのを市営住宅なりに、この市営住宅でしたら、2階以上は大丈夫ですとか、3階以上は大丈夫ですと言えば、2階の通路に避難していただいて、一時的な避難をしてもらえるということもできますので、ちょっとビルによって、どこまで浸かるかというのも表記していけたらというのは考えておるところでございます。以上です。

【小林地域課長】 地域課長の小林です。

補足でございます、大阪市が発行している住吉区版の防災ハザードマップのほうに今、松岡委員がおっしゃられたように、この3メートルから5メートルというのは、何階以上に上がらなあかんのだということで、お家の一戸建ての場合とビルの場合と施設、学校等の避難所の場合で、建物の高さをおおむね書いておりまして、2階以上に上がればいいのか、3階以上に上げればいいのかというような区分けから、このような割当てにさせていただいているというのが現状でございますので、実際、原田委員がおっしゃるように、何点何メートルという表示もできればいいんでしょうが、おおむね、この建物の階数による目安とさせていただいているところでございます。よろしく申し上げます。

【生田委員長】 ありがとうございます。

この色分けに関して、国土交通省のガイドラインがあるのですが、実は大阪府下の市町村、我々全部調べたところ、8パターンぐらいありましたね。ほとんどもちろんこれなんですけど、場合によっては、真逆になっていると。ある市とある市で高い、低いが逆になっているというパターンもあつたりしますので、ぜひ大阪市以外でハザードマップを見られるときは、ちょっと注意していただいて見ていただくほうがいいかなと思います。

【小林委員】 ちょっとよろしいですか。

【生田委員長】 小林委員、お願いいたします。

【小林委員】 今の色分けのことなんですけど、色覚異常者という方がおられるというのは、皆さん、御存じでしょうかね。人間の目に入った情報というのは、いわゆるRGB、その視神経で入ってきて、色覚異常者の大半が緑が非常にきついんですね。そうすると、全部赤が黒になっちゃうんですよ。また年がいても、だんだん色分けができにくくなる。色覚異常者のパーセンテージ、男性は5%と言われてます。女性は2%と言われております。できたら、例えば住吉区だけでも、要は色覚異常者用に色の分け方というのが何かあるみたいなんです。そんなので、ちょっとできたらありがたいかなと思うのですが、御検討できませんでしょうか。

【小林地域課長】 地域課長の小林です。

2種類作るというのも方策かもしれませんので、今後、予算も含めて検討のほうをさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

【生田委員長】 カラーユニバーサルデザインとか、メディア・ユニバーサルデザインという企画もありますし、あとそれこそ、色に関してはISOの企画なんかもあります。ですので、そのあたり工夫をしていく余地は、まだまだあるかなと。あとは当然、ここに浸水の数字を入れるという手もありますので。それもありますし、いろいろハザードマップは作ったら終わりではなくて、活用方法がやはりそこも大事なかなというふうに思っております。

どうでしょう。篠原委員、最後に一言となりますが、せっかくです。

【篠原委員】 篠原です。

備蓄物資を2階以上に上げるというお話なんですけども、できる、できないところがあるというお話で、例えば少し高いところに上げるとか、絶対濡れちゃいけないものを、ちょっと高いところに奥とか、そういったことの工夫が必要なんじゃないかなとすごく感じました。先ほどの訓練のときの物資の整理という話も合わせて同じ話だと思いますので、よろしくお願いします。以上です。

【小林地域課長】 地域課長の小林です。

先ほどのアクションプランの9ページにもありましたように、三角印になっているところがちょうど篠原委員がおっしゃったように一部の物資だけを上層階に上げているということで、残りがこのスペースの関係もありますので、今後さらなる調整をさせていただきたいところではありますが、水害のときは上にあっただほうが便利なものですが、実は地震があったときに、体育館の1階なんて、実は1階にあっただほうが便利だったよねというようなところもありますので、水害は実際に発生するまでに時間がありますので、先ほども申しあげたように、そのうちに、時間のうちに上に上げていただくというようなこともできるかとも思っておるところでございます。今後、学校のほうと調整をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【生田委員長】 ありがとうございました。

やっぱり学校によって、かなりスペースが限られているところで、もう入れるので精いっぱい、整理するのもなかなか難しいというところもあるかもしれません。

ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

本日は様々な御意見が出ております。まだまだ議論し尽くせないこともあると思いますが、時間の関係もございますので、この辺で一旦議論については終了とさせていただければと思いますが、何か最後に言い忘れたとか、これだけは言っておくつもりだったということがもしあれば、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

では本日に関しましては、総合防災訓練がこの間あったということで、そちらの御報告と次年度に向けてというところがありました。かなり細かいアレルゲンの話であったり、あと水害に関してはハザードマップのデザイン等、御意見を頂いたかと思えます。

またアンケートでスムーズか、スムーズじゃないかというところ、主観評価ですので、全く同じ訓練をしていても、スムーズと感じた人と感じない人がいるというのは原田委員の御意見で、やはりきちんと準備して趣旨を理解して来られていた方だったら、多少うまくいってなくても、それはそれでもう十分スムーズだったと答える方もいれば、何も準備されてなくて、何していいかわからないというところで、スムーズじゃなかったという御意見もあったのかなど。私も実際参加させていただきまして、なかなかやはり完全に何をすべきかというのを全員が理解して動くというのは、なかなか難しいですし、それを完璧なマニュアルを作っておくというのも、なかなか大変かなという気はしたんですが、やはり訓練を重ねていくことによって、お互いの阿吽の呼吸といいますか、本当はマニュアルがもう完璧のものでできればいいんですが、そのまた分厚いものをいちいち訓練でまた読んでいられないし、また臨機応変も必要ということがありますので、それぞれ地域のメンバーが訓練を重ねて、阿吽の呼吸みたいなものが身についてくるというのが、やはり理想なのかなという気もしました。時間もなかなか足りないと、いろんな訓練をやりたいけど、1年に1回、大きい訓練を入れても2回ですので、なかなか厳しいという御意見もありました。福祉避難所に関しては、まだまだ少し先になってしまっているという現実もよく分かりました。やはり数年前ですと、福祉避難所の話ももうちょっとあったかと思うんですが、コロナの中で、少しまた元に戻ってしまっているのかなという気もします。来年度はコロナのほうがか何とか落ち着いていればというところかと思えます。

あとは前回の会議以降、総合防災訓練もあり、あとは大阪で大きい災害というと、やはり火災がありましたので、年末でしたかね。放火の火災があり、千日デパート火災以来の被害ということで、それこそ大阪市における年間の火災死者数が1つの火災で大体出てし

まったということもありましたので、やはり地震、水害等々のお話もちろんあるんですが、火災というものも年間20人以上の方が亡くなっているというところもありますので、いろんな災害がありますので、それぞれやはり地域で備えていただくということが大事かなと改めて思いました。

まず、今年度は今回で終わりということになります、またあつという間にまた次の総合防災訓練も近づいてきますし、あとは夏になりますと、台風や水害等のシーズンも近づいてまいりますし、とか言っている間に原田委員がおっしゃるとおり、南海トラフもどんどん近づいてくるということがありますので、年度末ではありますが、またもう一度、気持ちも新たに防災のところをまた各自進めていただければというふうに思います。

本当に今日は長時間、御議論をどうもありがとうございました。

最後に、区長からお願いいたします。

【平澤区長】 区長の平澤です。

本日は本当に活発な御議論、どうもありがとうございました。

本当に細かい点も含めまして、日頃の訓練、あるいは地域での取組の中で気づいたことにつきまして、こちらのほうで情報共有を頂きまして、そういった気づきが非常に今後の我々の防災対策にも有益になると思っておるところでございます。

また、総合防災訓練の日程につきましては、やはり決まった日にやるということで、この意識付けをしたいという思いがある一方で、やはり決まった日になると、その日に参加できない方もいるということで、非常に難しい問題かなと。

また、訓練の時間につきましても、なかなか長時間になると、いろんなことができるんですけども、逆にそれだけの時間を参加するのが難しい方もいるんじゃないかといったことで、ちょっとどれが一番いいのかというのは、なかなか判断が難しいところかと思えます。令和4年につきましては準備の関係もございまして、例年どおりという形でさせていただきたいと思っておりますけれども、今後おっしゃるように、やっぱりどうしても土曜日、参加できない方にも参加していただくことも重要と考えておりますので、そのあたり、どうしていくかというのは、畑委員からもアドバイス頂いたようなアンケートを取ってみるとか、そういった方策はちょっと今後、検討していきたいと考えております。

また、福祉避難所との訓練につきましても、やっぱりコロナの関係でなかなかそこまでできていないということもありますし、一般の方の参加も、この2年間できていないということで、来年につきましては、一般の方は何とか少しでも参加していただけるような形

で進めたいと思っておりますし、コロナが収束すれば、徐々に範囲も広げていってというふうなことでやっていきたいと思っております。

一方で、災害もいつ来るか分かりませんので、あまりゆうちょなことも言ってられないということがありますので、そのあたりも含めて、また御意見を頂きながら、一つ一つ課題のほうをクリアしていきたいと思っておりますので、引き続きの御協力、どうぞよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

【大宅地域課長代理】 委員の皆様、改めまして、本日も長時間御議論いただきまして、ありがとうございました。

令和3年度の防災専門会議はこれで終了となります。今年度も様々な貴重な御意見を頂きまして、まことにありがとうございました。

また今年度も、新型コロナに翻弄された1年にはなりましたが、来年度は皆さんの日常が普通に帰ることとともに、この間、滞っている事業とか、行事とかがうまく行えることを私のほうどもも、そういうふうなことを願っておりますので、今後とも御協力のほう、よろしくお願いいたします。

ところで、ちょっと話が替わるのですが、来年度から地域防災力向上アドバイザー事業というのが廃止になることに伴いまして、本日御出席の金井アドバイザーが今日で最後ということになりますので、少し御挨拶をお願いしたいと思います。

【金井アドバイザー】 すみません、時間を頂きまして。今、説明がありましたように、今まで危機管理室、ここから防災アドバイザー、こういったものを地域に派遣しまして、地域の維持防災力の向上、これを図るといった形で動いていたつもりなのですが、この2年ほどはコロナ禍、こういったところに振り回されまして、なかなか進んでなかったのかなと思っているんですが、そういった中で、今後は区役所、こういったところで同じような中身の仕事はしていただけたと思います。そういったことでは、より地域の方に近い視点で取組ができると思いますので、また今後とも防災活動をよろしくお願いしたいと思います。どうも本日はありがとうございました。

【大宅地域課長代理】 金井アドバイザーには、住吉区の防災力向上に御尽力いただきまして、ありがとうございました。

それではこれもちまして、令和3年度第3回住吉区防災専門会議を終了させていただきます。本日はまことにありがとうございました。お疲れさまでした。